３月定例会　一般質問

村政を問う

一般質問とは議会定例会において、各議員が住民の代表として行政全般にわたり村当局の考え方や疑問をただすことです。

また、議員にとって政策の見直しや政策を提言する重要な活動の場です。

今回は、２人の議員が登壇しました。

質　問　者	質　問　事　項	ページ
高橋　七重	①　組織体制の見直しが必要ではないか	10 ～ 11
	②　入浴施設は本当に必要か	
	③　道路の簡単な修理・修繕のための予算化を	
三本松和美	①　小中学校スクールバスの乗降場所について	11 ～ 12
	②　小学校統合準備委員会の設置について	
	③　村内タクシー会社と連携しライドシェアを導入できないか	
	④　６５歳以上の高齢者人口と１５歳から６４歳までの生産年齢人口について	

高橋 七重 議員

Q 組織体制の見直しが必要ではないか

本村の組織体制が現在の形になってから丸3年が経過。この間、定例会の質問に答えるのは圧倒的に企画商工課長であること、またこれが企画の仕事なのかと疑問に思う。

たとえば、若者の流出や少子化、移住定住対策、空き家バンク、企業誘致など、このような問題に知恵を出し合うのが企画政策ではないのか。現状で調査や視察、補助事業の検索等々やっている時間を十分に取れるのか。

A 現状と課題を精査

▼総務課長

機構改革は、職員からの要望で職員アンケート調査、各課ヒアリングを行い、働きやすい環境、効率的な業務が可能となる最善の改革を行ったもの。

改革以降、継続して状況報告を受けての検証作業、さらに全職員に対して業務・配置に関する意向調査を行っている。

再Q 数年前に空き家対策に関して業者に委託して実態調査をした。結果、持ち主の意向は分かったが、その後どうするのかがまったく進んでいない。この問題に、しっかり取り組めるように企画商工課の業務内容を見直すべきではないか。

再A ▼総務課長

各課とも少ない職員数で分担し業務を行っている。年度ごとに職員の増減を図りながら、重点施策を実施していく。

Q 入浴施設は本当に必要か

① 入浴施設建設の目的は何か。

② 造るのであれば、花卉や農産物生産のための施設を当然先にすべきではないか。

③ 仮に建設するとした場合、維持、管理などの運営方法はどのようにするのか。

A 公約実現のために実施する

▼村長

① 健康長寿を目指すための行政としての事業の一環。

② その事業をより良いものにするために、考えが変わることはあり得ること。

③ 具体的な運営方法については、これから検討を進めていく。

再Q いま地方にある入浴施設が次々と姿を消している中、仮に指定管理者制度で運営をする場合、赤字分も含め、それらの支払いを続けていけるのか疑問。どのように考えているのか。

再A ▼村長

運営方法をかなり心配しているようだが、道の駅を造る時も、議員に必要性を訴え理解を得て実現に至った。入浴施設についても、公約の一つとして掲げ支持を得たので進めさせていただく。

Q 道路の簡単な修理・修繕のための予算化を

道路予算は、優先順位があり、小さいものにはなかなか予算がつかないのが現状。

そこで、側溝に蓋をかけたり、小さな陥没を少ない材料や作業で修理するための費用を別枠で予算化してはどうか。

A 住民の協働参加による地域づくりを推進

▼産業建設課長

簡易な修理・修繕については、職員や道路補修員で直接作業している。それ以外は、村内業者へ依頼している。令和6年度も道路補修員の人件費、必要な資材、業者に依頼するための手数料、重機借り上げ等の予算を計上している。

再Q 住民の要望に応えられるよう予算を確保しておけば「予算がない」と言わなくて済むのではないか。

再A ▼産業建設課長

応急的な処置では根本的な解決にはならない。「道路等維持補修補助金」は、住民の労力や資材以外にも地域の人材や機動力を活用する事を目的としているが、そのほか業者への作業委託も認めている。その作業内容は多岐にわたっており、村が実施するより早く解決している。

側溝に蓋をする点については、一概に安全とはいえず、維持・管理の観点から蓋が無い方がいいという住民の声もある。

三本松和美 議員

Q 小中学校スクールバスの乗降場所について

村のスクールバス運行について、保護者から、「現在の運行ルートでは、自宅近くに乗車可能な場所があっても、離れた場所で乗り降りしなければならない。」と聞いている。

特に、冬場の暗くなってからの帰宅の際は、バスを降りてから家に戻るまでに、交通事故や防犯上の心配があり、保護者等が送迎しているというのが現状である。

スクールバスの運行も子育て支援の一つとして重要。小中学校スクールバスの乗降場所について、柔軟に対応してはどうか。

A 個別な事情がある場合は相談して欲しい

▼教育課長

村では中学校4キロ以上、小学校2キロ以上の遠距離通学となる児童生徒の通学の便を図るためにスクールバスを運行。

また、子どもたちの発達段階を考慮し、40分以内に設定し、停留所の数も限られる。

これらの理由から、バスの乗降場所は子どもたち一人一人の自宅付近ではなく、複数の子どもたちが利用できるところに設置しているため、自宅付近でバスの乗り降りが出来ない子どもがいる事を理解いただきたい。

再Q 停留所によって小学校は停まるが中学校は停まらない。また、その逆もあるので柔軟に対応しては。

再A ▼教育課長

乗車時間の40分は学校での授業時間を主に考えている。低学年の児童が長時間乗車することになればトイレ休憩等も必要になってくる。

距離については距離的要件を満たさなくてもバス停まで来れば乗車可能とし、柔軟に対応している。

再々Q 実情について対象者に話を聞いてもらいたい。

再々A ▼教育長

個別な事情がある場合は、教育委員会に相談してもらい、対応していきたい。

Q 小学校統合準備委員会の設置について

令和5年3月議会定例会で「令和6年には小学校統合準備委員会を設置し、小中一貫教育を検討していきたい。」と答弁があった。小学校統合準備委員会を設置するのか。

A 検討委員会を設置し協議していく

▼教育課長

新年度に、「平田村学校等整備庁内検討委員会」を設置し、統合に関する時期や課題等を協議していく。

再Q 先の答弁は準備委員会といっていたが、変わったのは、今後幅広く検討していくというふうな流れになってきたためか。

再A ▼教育課長

庁内で検討委員会を立ち上げ、その中で想定される課題などについて十分な協議を重ね統合に係る課題などへの対応案が整ったのちに、「平田村学校等統合委員会」を設置し、統合等について審議したいと考えている。

再々Q 両小学校とも耐用年数は20年以上あり、まだまだ十分に活用できる。

検討していくのであれば、新しく造るという方向ではなく、どのようにしたら子供たちが増えるのか、検討委員会に位置付けして話をしていくことが先ではないか。

再々A ▼教育課長

議員の意見も含め、まずは庁内で検討していきたい。

Q 村内タクシー会社と連携しライドシェアを導入できないか

村では、高齢者等へのタクシー料金助成事業を行い、大変喜ばれているが、タクシーの台数が少なく、必要な時に利用できないという声がある。

そこで、村内タクシー会社と連携し、一般ドライバーが有償で顧客を送迎する「ライドシェア」を導入できないか。

A 事業支援を検討していく

▼企画商工課長

村内でも必要な時にタクシーが利用できないといった声があることは承知している。このライドシェア事業は村内での交通手段の確保対策として有効であると思われるので、タクシー会社の意向も踏まえ、村としても事業支援していく。

Q 65歳以上の高齢者人口と15歳から64歳までの生産年齢人口について

人口問題研究所の将来推計人口の発表によると、10人に6人が65歳以上の高齢者と言う予想。

また、15～64歳の生産年齢は、平田村は5割を下回る見通し。

県は市町村とも連携しながら、移住促進や県内企業の魅力発信など、社会減の対策を中心に減少を抑えるための取り組みを進めていく方針。村としての対策は。

A 前向きに定住対策に取り組む

▼企画商工課長

来年度以降も国県と連携した取組のほか、村としても、年少人口・生産年齢人口の確保のため、結婚、出産、子育てに対する支援を継続し、若者の村内への居住を誘導する施策として、旧小野平田校跡地での民間賃貸住宅の整備、宅地分譲など定住対策に取り組んでいく。

再Q 若い方や女性の定住を図るためには働く場が必要。女性の働く場の確保に力を入れてほしい。

再A ▼村長

村内に企業誘致はかなり厳しい。

平田村は隣接する市町村への通勤圏内でありベッドタウン的な方向付けはやるべきだと思っている。

新規就農や企業誘致についても一緒に考えていかなければならない問題。

要望

若い方たちの意見を把握し、魅力ある平田村を目指していってほしい。